

### 将来都市像とは

都市計画マスタープランの推進により実現を目指すまちの姿。まちの特性や課題、将来に対する希望やメッセージを含め、概ね 20 年後の姿を設定。

### 【参考】将来都市像（現行都市計画マスタープラン P36）

#### 日本一 “住みたくなるまち” 大村

大村市は、豊かな自然、歴史資源の魅力とともに、良好な居住環境によって、長崎県でも有数の住みやすい都市として発展してきました。

また、空港、新幹線、高速道路など充実した交通体系の活用により、賑わいや交流機能を高める可能性を秘めています。

こうした大村市が持つ魅力や機能を活用することで、新たな都市文化や暮らしの場を創出し、訪れる人、住む人を大きく増やすことができます。

本計画では、こうした“住”と“交流”に重点を置き、自然・歴史文化と充実した都市機能の魅力が育むまちを目指し、将来都市像を「日本一住みたくなるまち大村」と定めます。

### 【参考】将来像（第5次大村市総合計画 2016～2025）

#### ～行きたい、働きたい、住み続けたい～ しあわせ実感都市 大村

“しあわせ”の感じ方は人それぞれですが、ご自身やご家族の健康、趣味や生きがい、子どもたちの健やかな成長、家族の絆など「日常生活の様々な場面で、誰もがしあわせを実感できるまち」、これが大村市が目指すまちの姿です。

市民の皆様とともに、しあわせを実感できるまちづくりを進め、“行きたい”、“働きたい”、“住み続けたい”と思える魅力的なまちを目指します。

### 《全体的な意見》

- 高速交通も長崎の中心にあるということも他市町と比べて有利な点
- 新幹線以外の空港、高速道路については既にある、それも「住みやすい」の一つで、「良好な居住環境」の中に高速や空港があるということも含めていると思う。
- 住むことを考える場合には子育てしやすい、教育しやすい都市というようなキャッチフレーズも大切になるため、人口増加を目指すのであれば子育てしやすい政策が必要になる。
- 大村市は空港や新幹線があり、高速道路 IC から車であれば 15 分ほどで概ねどこにでもアクセスできる非常にコンパクトな街
- 地形的に平坦、自然環境が豊かで生活利便施設も充実している一方で長崎や諫早にかなり多くの方が通勤・通学で流出しており、今のままの流れであればベッドタウン化が進んでいくものと考えられる。
- 安全のキーワードは入っていた方がよい。「安全で快適な暮らし」とするだけでも違ってくる。
- 高速交通体系はもちろんのこと、情報網の整備も非常に大切になるのではないかと。創業しやすいまちづくり、挑戦する若い人たちが来てくれる、そういった土壌をしっかりと作っていくことが必要である。

## 都市と自然が調和する住みやすいまち 大村

本市は、これまで、恵と潤いをもたらす大村湾や丘陵地の緑を大切に守りながら、平野部には市民の暮らしを支える良好な市街地を形成してきました。こうした地理的特性を活かした良好な自然環境と都市環境は、市民の貴重な財産であり、未来の世代へ引き継いでいく必要があります。

また、九州新幹線西九州ルートの開業により、空港・新幹線・高速道路などが揃うまちとして、高速交通を活かした新たな交流が生まれ、より発展していくために、今後は、良好な自然環境・都市環境・交通環境などを活かしたまちづくりを進め、住みやすいまちになることを目指します。

### 《意見》

- ・「とかいなか」**都会と田舎のちょうどいい**というところが都市と自然が調和するということに合う。
- ・田舎だが生活する分には困らないし、医療機関には困らないというのは、とても魅力があると思う。
- ・大都市部に機能や人が集積していることがメリットだったものが、都市的なものと自然のバランスが求められ、**今後は地方の中心都市が重要な役割を果たしていくようになる可能性があり、バランスの良さが都市づくりの中でキーワードになってくるのではない**か。
- ・**自然環境を守りつつ災害にも対応する**というのが今後重要になる。
- ・**中山間地域などでも大村市から疎外されていると感じている人もいるため、公共交通機関の充実や人のつながり・交流なども考えてもらいたい**。
- ・**「都市と自然が調和するまち」というのが、よく聞くような言葉の言い回し**

## ～ひとつつながる まちがつながる～ 交流がひろがるまち 大村

本市は、豊かな自然環境や良好な居住環境に加え、交通の利便性により、県内有数の住みやすいまちとして発展してきました。また、九州新幹線西九州ルートの開業により、空港・新幹線・高速道路などが揃うまちとして、高速交通を活かした新たな交流が生まれ、より発展していきます。

今後は、充実した高速交通体系や公共交通網、平坦な地形を活かした自転車や徒歩など、様々な移動手段を最大限に活かして、新幹線沿線市町をはじめとした様々なまちとのつながりや多様なライフスタイル、新たな交流が広がるまちを目指します。

### 《意見》

- ・「つながり」というのはコンパクト・プラス・ネットワークや、様々な地域との人のつながり、市内に住んでいる人同士のつながりなども重要になってくると考えられ、今住んでいる方だけではなく、これから住んでもらう人も含まれ、さらには街道があった歴史なども感じられる。
- ・「つながる」を考えると、長崎県全体を見ればIR構想などもあり、大村は空港もあるため、**海外とのつながりもある**。
- ・**「交流や多様なライフスタイル」は高速交通体系だけで実現が図られるものではなく、歴史・文化や自然など多様な地域の拠点があり、それらをつなぐ交通が生まれ、地域の中で歩いて暮らせる空間もある**。

## 来てよし！働いてよし！住んでよし！選ばれるまち 大村

本市は、豊かな自然環境の魅力とともに、良好な居住環境によって、長崎県でも有数の住みやすいまちとして発展してきました。また、九州新幹線西九州ルートの開業によって、居住の場・就業の場としてのポテンシャルがより一層高まっています。

今後は、本市の強みである、充実した高速交通体系と、都市と自然が調和した良好な居住環境を活用し、快適な暮らしはもとより、多様な交流やライフスタイルを提供できる魅力あるまちとして、来る人・働く人・住む人から「大村にしよう」「大村でよかった」と思われる「選ばれるまち」を目指します。

### 《意見》

- ・大村市ほど**高速体系が整備されている都市は全国的にもまれ**だが、一般道についてはまだ危ないところがあり、抜け道の交通事故の危険性などもあるため、「**住んでよし**」は子どもにとっても**住みやすいものにしていく必要がある**。
- ・自然環境や地形、交通体系などの利便性といった視点で「住みやすい」という整理になっているが、災害に対する**安全・安心の確保**という部分も「住んでよし」のキーワードになるのではないか。
- ・「住んでよし」について、**コロナ禍で大阪・東京などからの移住も増えてきている**が、大村市に来てよかった、住んでよかったと思われるまちにしていきたい。
- ・**「学んでよし」を加えてほしい**。また、「働いてよし」の中には「創業」の視点なども入っているとよい。
- ・来てよし、働いてよし、住んでよしと**元気はあるが軽い感じがする**。
- ・**「来てよし！」**というのは市外に住んでいる人を意識しているイメージに感じる。

## 未来へつなぐ魅力あふれるまち おおむら

これまで、本市は、恵と潤いをもたらす大村湾や丘陵地の緑を大切に守りながら、平野部には良好な市街地を形成し、県内有数の住みやすいまちとして発展してきました。また、西九州新幹線の開業により、空港・新幹線・高速道路が揃うまちとして、都市環境のポテンシャルが一層高まりをみせています。

こうした「都市と自然が調和した豊かな自然環境」や「充実した高速交通体系などの良好な都市環境」は、市民の貴重な財産、魅力であり、今後のより一層の発展に向けて、未来の世代へ引き継いでいく必要があります。

そうした魅力を活かしながら、安心して暮らし続けることができるまち、多様なライフスタイルを実現できるまち、新幹線沿線市町をはじめとした新たな交流が広がるまちとして、未来へつなぐ魅力あふれるまちづくりを目指します

### 《意見》

- ・20年後のまちづくりをイメージした将来像であるなら、「未来へ」というのは、20年後の未来なのか、20年後のさらに未来のことなのか。その辺りを説明できた方がよい。
- ・**「未来へつなぐ」というのは抽象的な印象**